

第5章 考えよう

ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん
ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん

中原中也『サーカス』より

ボランティアを考えよう

テレビニュースを観ていると、新宿のバスターミナルから東日本大震災のあった福島県へボランティアに行く人々が映った。「僕は百十一回です」と中年の男性が言った。送迎バスを無料で提供している会社の社長さんは、「もう四百回になります」と言った。私は、これは国がやることだろうと思った。

昼のバラエティー番組を観ていると、俳優の杉良太郎さんが出演していた。杉さんは東南アジアの貧しい子どもたちに学校や病院を提供し、支援している。大勢の子どもの里親にもなっている。

杉さんが「ボランティアは、見返りを求めません。たとえ『ありがとう』と言う言葉でも」と言ったので驚いた。私は、老人介護施設や病院で、童謡の会の会員と一緒に歌を歌うボランティアをしている。「楽しかったです。また来てください」「今日は、踊りはないの?」「今回は『みかんの花咲く丘』や『牛若丸』をやってください」と言われると嬉しい。また行こうと思う。「ありがとう」と言う言葉がなかったらどうだろう。

さらに、杉さんが「寄付は、お金と時間」と言ったので驚いた。私は、自費出版で作った『読む、歌う 童謡・唱歌の歌詞』（夢工房）の歌の本を寄付している。施設の方々が喜んで使っていると聞けば嬉しい。しかし、「いらぬ」と言う施設長もいる。

「時間を寄付する」という言葉は衝撃的でした。ボランティアには「時間」が必要だ。「時間」を作らなければ、できないことです。

杉良太郎さんの言葉

「福祉を實行するには確かに時間とお金がかかる。特にお金がないと見栄えのいい福祉はできません。でも、お金がない人は時間を寄付すればいい。お金も時間もない人は、福祉に対する理解を示し、実際に活動をしている人に拍手を送るだけで十分。それでもう立派な福祉家なんです。福祉ってそういうものです」。杉良太郎さんはカッコ好すぎる。

息子の山田純大さんの話になると嬉しそうだった。「純大は、良く育ちました。だから私も褒められる。人脈も多く、俺より多いんじゃないかな。でも、芸能界では真面目で良い人だけで

はダメで、はったりがきかなければダメだね。これからどうなるかね。」

◆山田純大さんは、成城学園初等学校卒、ハワイの中学・高校を経て、ハワイ大学から転校し、米・ペパーダイン大学国際関係学部アジア学科卒業。卒業直後、一時期報道の特派員になった。「大統領のインタビュアの席にいたのだが、手をあげたら指名された。仰天して頭が真っ白になった経験がある」と話していた。さわやかな青年です。

消費税はゼロパーセント

平成二十八年七月十日、参議院議員選挙があった。テレビで政見放送を聴いていると、女性の立候補者が「私が留学したアメリカでは消費税はゼロでした」と言った。

早速、娘にメールをした。「アメリカでは消費税は0%なのですか、教えてください」。

すぐ、娘から返信があった。「消費税、ありますよ。州によって違うけれど（州イコール小さい国だから）ニューヨーク州は8・875%です。内訳は州税4・375%、市税4・5%。ただし物によってかかるものとかからないもの、市税だけがかかるものとか複雑に分かれています。例えば洋服110\$以下は無税。美容系サービスは市税のみ。ホテル消費税はないけれどホテル税14・75%プラス3・50\$（客室占有税）。あとは全てに税がかかります」。

隣のニュージャージー州の消費税は、7%で、洋服、靴、薬、食品には税金がかからないので、学生は大体ニュージャージー州で買い物をするから、こちらの話じゃないのかな。ニューヨーク

州の人はニュージャージーとかカナダとかに買い物に行くから。でも他のもの、例えば文房具とか本とか食器とかには消費税がかかります。(娘が高校二年生の時に留学したカリフォルニア州バークレー校の売店では、ノートを買うのに20%の消費税がかかった)。

生活必需品が無税という州が多いようだけれど、その基準も州によってまちまち。メリーランド州では炭酸飲料も無税だったが、肥満の人が多から課税しようという動きがありました。州ごとに決まっていて、日本のように国で税金を取ってないから免税システムはないです。

アメリカで消費税0%は、完全な嘘です。または、住んでいたのに、社会の仕組みについては無知・無頓着かどちらかで、いずれにしても政治家の資質はないと思います。】メールには、「よく考えてみて」と締めくくられていました。「娘に教えてもらうなんて、おかしいね」と返信した。

◆「メリーランド州では」というのは、娘たち夫婦が、メリーランド州立大学が用意してくれた招待研究員住宅に約二年間住んでいた頃の事です。現在は、コカコーラなどの炭酸飲料は課税されています。肥満の人は、成人病などのリスクが高くなる傾向にあるからです。これは、テレビニュースにもなりました。童謡の会で話すと、「そのニュース、観た」と言う人が大勢いました。意識の高い童謡の会です。

名前を連呼の選挙

平成二十八年九月十日、大井町町議会議員選挙があった。政党の支援を受けた人は当選。親戚

の多い人は当選という選挙結果だった。「活気ある大井町にします。私に清き一票を、心からお願ひ申し上げます」。候補者が選挙カーから名前を連呼した。

選挙が終わると、町役場、相模金子駅、大井小学校付近の区画整理が始まった。これから家が建設され、活気ある町になります。みんなが期待する町です。ウグイス、キジ、ヒバリは啼きません。レンゲ、シロツメクサ、麦笛で遊ぶ子ども、キャベツ畑のモンシロチョウもいなくなります。「私、ゆり坊は、毎年キジがやって来て、ケン ケンと啼く、この田舎町が気に入っています。みんなの力で静かな緑の町を守ろうではありませんか」。

庭で草むしりをしてしていると、上下水道のメーター検査員が来た。「このように緑があるとホッとしますね」と言つて通りすぎた。「今日は本当に暑い日ですね。ご苦労様です」。

私が大学生の時、東京都東村山市の市議会議員選挙があつた。男子学生が立候補して当選した。応援で選挙カーに乗った友だちの女子学生は、「市内を、名前だけを連呼して、ぐるぐる回り、気持ちが悪くて吐きそうだった」と言つていた。当選した人は、今どうしているだろうか。時々思い出します。

名誉東京都民

平成二十八年十月三日、名誉都民の顕彰式が都庁で開かれた。

「おむらさとし大村智さん」八十一歳、ノーベル生理学・医学賞を受賞した北里大特別荣誉教授 世田谷区在住。

「小澤征爾さん」八十一歳、指揮者「世界のオザワ」世田谷区在住。

「三宅義信さん」七十六歳、ウエイトリフティング協会会長 オリンピック重量挙げ金メダリスト 練馬区在住。

小池百合子東京都知事が、称号記と記章を手渡した。渡す方も、受け取る方も、ニッコリ笑って、みんな嬉しそうだ。テレビから流れるニュースに感動して拍手した。

四日、読売新聞には一行も報道されなかった。なぜなら、トップ記事は「大隅良典さんノーベル生理学・医学賞受賞」だったから。日本中が日本人のノーベル賞受賞にわいた。それで名誉都民の顕彰式のことを、ここに書いておくことにしました。

死ぬこと

「死ぬ」これほど怖いものはない。自分の死だけでなく、他人の死もおそろしい。私は、いつ病院から父と母の死の連絡が来ると毎日怖くてたまらなかった。

テレビニュースの事故死には、テレビに向かって手を合わせて拜む。今日も、建設中の十階のビルの工事現場で移動していた鉄のパイプが路上に落下、下を歩いていた男性の頭に突き刺さり即死した。工事現場下の誘導員は上で鉄のパイプをワイヤーで吊って移動中であることに気がついていなかったという。誘導員は何の知識もない素人だ。

NHKテレビ朝の連続ドラマ『べっぴんさん』、開始早々主人公すみれの母親・坂東はなが亡

なくなった。天国に旅立つ母親が「これからは大切な人たちを見守って行ける」という場面があった。それは美しかった。私は考え込んでしまった。

死刑廃止論

平成二十八年十月七日、日弁連は福井市で人権擁護大会を開き、二〇二〇年までの死刑制度廃止と終身刑の導入を国に求める宣言を採択した。

死刑制度廃止賛成派は、提案理由の中で「冤罪^{えんざい}」をあげている。袴田事件^{はかまだ}がその例だ。控訴しなければ死刑が執行されて生命が奪われていた。「間違いだつた」では済まされない。死刑を執行してしまつてからでは遅い。しかし、冤罪を見抜くのは今でも難しい。人は平気でウソをつくからだ。

討論では賛成派が「人は変わるということを前提に刑事裁判に取り組んできた」と訴えた。弁護士が担当の犯罪者に対して「人は変わる」との思いで弁護するのは当然だが、本人が変わつても、世間は許さない。ささいな遠い過去の出来事であっても許さない。

七日の出席者七百八十六人のうち五百四十六人が宣言に賛成した。反対派は「死刑を望む遺族の気持ちに逆らうことはできない」と反論した。

津久井やまゆり園の事件では十九人が殺害された。重度の障害者ばかりを狙つた計画的な犯行だつた。この場合、死を持つて償わなければ他に謝る方法がない。犯人の弱者に対する誹謗^{ひぼう}中傷^{ちゆうきやう}

傷の考えが変わるとは、とても思えない。

過去には、「誰でもいいから人を殺して死刑になりたかった」と、無差別に人を殺す事件も起きている。殺された人は何の罪もない一般の人だ。もっと生きたかっただろう。被害者遺族は死刑廃止でいいのか。それでいいのか。事件の被害者遺族らと議論を重ねても、理解を深めることはありえない。

六日のシンポジウムでは、僧侶で作家の瀬戸内寂聴さんが「人間が人間を殺すのは一番野蛮なこと。みなさん頑張つて、『殺さない』って唱えてください。殺したがるバカどもと戦ってください」と発言。制度を批判するビデオメッセージが流された。会場にいた被害者遺族が反発し、大会実行委員会が七日、「配慮がなかった事をお詫びする」と陳謝した。どう考えても「殺したがるバカども」とは言い過ぎだろう。後日、寂聴さんも謝った。

会場には、全国犯罪被害者の会（あすの会）のメンバーや、被害者支援に取り組む弁護士らがあった。自らも妻を殺害された岡村勲弁護士は「被害者遺族は、加害者に命で償ってもらいたいと思っている。それをバカ呼ばわりされるいわれはない」と話した。もっともだ。

では、死刑制度は犯罪の抑止力になっているか。昔読んだ新聞の投書の中に、「戦後の食糧難の時代、家に二人の泥棒が入った。私は縛り上げられた。一人が『顔を見られているから殺してしまおう』と言ったが、もう一人が『物を盗んだぐらいでは罪は軽いが、人を殺したら死刑だ。放っておこう』と言って逃げて行つた。それで私は助かりました」というのがあった。死刑を廃止している国々の人の意見を訊きたいものです。

米兵捕虜も被爆死

オバマ大統領は、平成二十八年五月二十七日、現職アメリカ大統領として初めて、米軍が昭和二十年八月六日に原爆を投下した広島を訪問した。

声明を発表した後、被爆者である日本原水爆被害者団体協議会の坪井直代表委員（九十一歳）と、歴史研究家の森重昭さん（七十九歳）のもとに歩み寄り、握手して話に耳を傾け、言葉を交わした。

「原爆による米兵犠牲者」米兵捕虜も被爆していた。ほとんど知られていないこの悲劇は、オバマ大統領が抱きしめた森重昭さんによって発掘されたもの。

森さんがサラリーマン生活のかたわら、二十年以上にわたって調べ続けたのは、被爆死した「十二名」の米兵のこと。

昭和二十年七月二十八日、広島・呉軍港への攻撃の途中、日本軍の高射砲によって二機の大型爆撃機B24と二十機の艦載機が撃墜された。パラシュートでの脱出で生き残った乗員たちは、広島城内にある憲兵隊司令部など三ヶ所に分散留置され、取り調べを受けた。だが、八月六日に至近距離で原爆が炸裂。捕虜となっていた十二名のうち十名が即死し、残り二名は二週間近く生存したが結局、死亡。その二名は憲兵隊によって広島島の宇品で葬られ、墓標が建てられた。

森さんも、八歳の時に被爆している。自分の友だちをはじめ多くの死者を出した広島原爆の調査をライフワークとした森さんは、被爆死した米兵たちのことを知り、一人一人の名前と遺族を特定し、アメリカの遺族とも接触していく。それは執念の調査だった。

同胞が投下した原子爆弾によって自国の人間が死ぬ。それは、アメリカ側も隠したい事実だけに違いない。長期間にわたる森さんの努力は、やがて『原爆で死んだ米兵秘史』（光人社）として出版された。

このことは、日本人のほとんどの人が知らなかった事です。私も知らなかったので驚いた。オバマ大統領は通訳を通じて話を聞き、森さんが手を握りながら感極まって涙を流すと森さんを抱きしめた。森さんは面会后、「オバマさんは、優しかった。舞い上がってしまい、よく覚えていない」と語った。「米兵が天国で喜んでいるに違いない」と伝えると大統領から「サンキュー」と言われたそうだ。これに対し、日本のマスコミは、オバマ大統領の予定のパフォーマンスだと書きたてた。そばにいた安倍総理大臣は、時間を気にしているようだった。それで終わった。

アメリカでは、「原爆投下は終戦を早め、米軍の日本本土上陸が回避されたことで、多数の米軍人や日本人の命を救った」と正当化する声が根強くある。

当日、アメリカの報道陣はトルーマン大統領の孫にインタビューしていたが、孫は一般人と変わらない感想だった。戦後七十一年の歳月が経っているが、戦争の悲劇を忘れてはならない。

長崎の歌声

平成二十八年八月九日は『長崎原爆の日』です。「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が営まれ、田上富久市長は平和宣言で、核廃絶に向けて国際社会に「未来を壊さぬため、持てる限りの英知結集を」と求めた。オバマ米大統領の広島訪問を「自分の目と耳と心で（被爆地を）感じる大切さを世界に示した」と評価した。各国指導者に被爆地を訪れるよう呼びかけた。

さらに国連での核軍縮論議に核兵器保有国が参加していない現状を指摘し「議論に参加を」と訴えた。核兵器の歴史を「不信感の歴史」と表現し、信頼を築く方策として「市民社会の行動が礎となる」とした。

出席した安倍首相を前に、日本政府には「核兵器廃絶を訴えながら、核抑止力に依存している」と批判し、非核三原則の法制化や「北東アジア非核兵器地帯」の創設検討を求めた。憲法の理念を強調し「平和国家の道を歩み続けなければならない」と述べた。

東京電力福島第一原発事故に苦しむ福島を引き続き応援する姿勢を示した。田上富久市長の平和宣言は、わかりやすい言葉だった。

被爆者代表の井原東洋一さん八十歳は、平和への誓いの中で「核兵器の最後の一発が廃棄されるまで、広島、福島、そして戦争で多くの犠牲者が出た沖縄と連帯する」と力強く決意を述べた。なにより、山里小学校の子どもたちの合唱『あの子』（作詞…永井隆、作曲…木野普見雄）の素朴で美しい歌声が心に響いた。男子も女子も先生の指揮に合わせ、歌を歌っていることが感動

でした。しかし、その日のテレビニュースや、翌日の読売新聞、神奈川新聞では子どもたちの合唱についての報道はなかった。省かれていた。

爆心地から五百メートルの地点にあった長崎市立山里小学校では、原爆によって千三百人の児童と先生が一瞬に命を絶たれた。近くで保養を続けていた被爆医師・永井隆博士は、あの子らの霊を慰め、平和への足がかりにしようと、生き残った児童たちの原爆体験記『原子雲の下に生きて』の出版を援助、その印税で「あの子らの碑」を校庭の片隅に建立した。さらに「あの子」を作詞し、長崎市議会事務局長の木野普見雄さんに作曲を頼み、昭和二十四年（一九四九年）十一月三日に行われた碑の除幕式で、山里小学校児童の歌で披露された。以来、「あの子らの碑」には千羽鶴が絶えることがなく、歌「あの子」も、碑の除幕式のあった十一月三日前後に毎年碑の前で開く平和祈念式などで、今日まで歌い継いでいる。

知らなかった沖縄

平成二十八年八月二十日、NHKスペシャル『沖縄 空白の一年』を観た。戦場となった沖縄。防空壕ぼうくうこうの中に火炎放射器かえんほうしゃきを入れるアメリカ兵。捕虜にならないように赤ん坊を崖から落とした後、自分も崖がけから跳び込んでしまった若い母親。

昭和二十年八月十五日、本土の人々が太平洋戦争の終わりを告げる玉音放送を聞き、悲嘆に暮れる中、沖縄では、村や田畑を没収され、生き残った人々は「豚小屋の収容所」に集められ、全

く別の「戦後」がはじまろうとしていた。

アメリカ軍の占領直後の「昭和二十年六月から昭和二十一年にかけて」の映像や、米軍の機密資料、未公開の沖縄の指導者たちの日記等が公開された。

戦後、本土が平和と繁栄を謳歌する一方、その代償として重い負担を背負った沖縄。本土では、GHQが食料を配布し、日本政府も本土復興に力を尽したが、「沖縄は、外国だ」と見放した。アメリカでは、しだいに日本に対し食料の配給に反対する声が高まった。

沖縄の人々が「豚小屋の収容所」から解放された時、元の住居はアメリカ軍の飛行場になっていた。沖縄の人々は何ひとつなくした。アメリカは、沖縄をソビエトやベトナムへの軍事拠点と方針を転換していた。そのことに日本は気がついていなかった。

資料を詳細にみていくと、この時期、アメリカの占領政策は揺れていて、まさに沖縄が「これからどうなるか」が決められていく期間でもあったことがわかってきた。沖縄はこの時期、アメリカでもなく日本でもない、空白の状態に置かれながら、次第に「基地の島」へと変貌させられていった。

放送の中で、「極貧ごくひん」という言葉が頻繁に使われた。沖縄の人々は、新天地を求めてアルゼンチンやブラジルに渡った。言葉もわからず、苦勞の連続だった事でしょう。戦争は、おだやかに暮らしていた沖縄の人々の人生を狂わせてしまった。

沖繩戦を語る

「沖繩戦」は、太平洋戦争末期の昭和二十年（一九四五年）四月、米軍が沖繩本島と周辺離島に上陸して始まった地上戦。戦闘に巻き込まれた沖繩県民の四人に一人が死亡し、日米双方の犠牲者は二十万人以上になった。日本軍の組織的戦闘は六月二十三日、第三十二軍の牛島満・陸軍司令官の自決で終了したとされているが、その後も戦闘は続き、降伏調印は九月七日にずれ込んだ。日本軍による住民への集団自決強要やスパイ容疑での住民虐殺が発生し、沖繩で軍隊への根強い不信感が生まれた。

「慰霊の日」は、沖繩戦の組織的戦闘が終結したことにちなんで、昭和四十年（一九六五年）六月二十三日に琉球政府及び沖繩県が定めた記念日。沖繩戦を生きぬいた女性が重い口を開き、語った。

「外は弾丸が飛び交っていました。私は母親とはぐれて、赤ん坊だった弟を抱いて洞窟に逃げ込みました。だれかが『赤ん坊がいるな、泣き声が知られたら殺される。出て行ってくれ!』と言いました。今まで笑顔で仲よくしてきた親戚の人、近所の方は、だれ一人助けてくれる人はいませんでした。みんな黙っていました。『助けて、助けて!』悔しくて、悔しくて、憎いと思いました。

私は弟を抱いて洞窟からなるべく遠くに行き、隠れました。弟は栄養失調で死んでしまいました。弾丸が飛び交う音がやんだので、洞窟にもどってみると、米軍の火炎放射器で焼かれ、中にいた人は全員黒焦げで死んでいました。むごいことでした。……戦争は、人間が人間でなくなる。

二度と戦争をしてはいけない」。

夢の満蒙開拓団

平成二十八年八月十四日、NHKスペシャル『村人は満州へ送られた』を観た。昭和二十年八月、旧満州（中国東北部）。ソ連の侵攻で軍が撤退、取り残された人々は攻撃にさらされ、逃げ惑い、およそ八万人以上が犠牲となり、中国残留孤児など数々の悲劇を生んだ。それが、植民地の治安安定や軍への食糧供給を目的に二十七万の人々が満州に送り込まれた『満蒙開拓』移民事業の結末だった。これまで「関係資料は破棄され、人々が渡った経緯は不明」とされていて、その詳細は知られてこなかった。だが、村人を送り出した、長野県の村長の記録や破棄されたはずの極秘文書が発見され、農村を中心に村人がどのように送りだされたのか実態が明らかにってきた。

長野県の小さな村の村長は、国の政策に協力して満洲に送り込むために一軒一軒説得して回った。同行した役場の職員の女性の貴重な証言が放送された。予定の五十軒にはとどかなかったが、半数の九十三名が応じて新天地を求めて満洲に渡った。同様に全国でも行われた。

戦後、帰国した隣村の人から話を聞いた長野県の村長は、いたたまれず自殺した。四十一歳だった。村で帰国したのは当時十四歳の少年一名だけだった。八十四歳になったその男性は、「ソ連の侵攻で軍が撤退、取り残されたのは女や子どもだった。捕虜にさせないため、泣き叫ぶ子どもの首を絞めるのを手伝った」と語った。生々しい証言に驚いた。老人は、現在一人暮らしで、細々

と畑を作り生活している。

ほんとう

国の政策に協力して開拓団を送り出すために奔走した人、開拓団として満州へ渡った人、開拓団のために土地を追われた現地の人にもインタビューしている。貴重な番組。今回、日記や関係資料の全容取材が許された。よく資料が残っていたものです。また、専門家によって軍や国が『満蒙開拓』にどう関与したかを探る調査も進められている。

『満蒙開拓』移民事業に協力したのは、長野県に次いで多かったのが山形県だった。貧しかったためです。ひとたび国が政策を間違えると、多くの人の大切な命を奪うことになる。「運命だった」と簡単にかたづけてしまっってはいけない。

真珠湾攻撃の指揮官

平成二十八年八月十五日、NHKスペシャル『ふたりのしよく罪』を観る。真珠湾攻撃隊の総指揮官が生きていた。「これは、いったい?」。

七十年前、殺戮の最前線にいた日米二人の兵士。「トラトラトラ」を打電した真珠湾攻撃隊の総指揮官、淵田美津雄は、その後もラバウル、ミッドウエーを戦い、戦場の修羅場をくぐってきた。淵田は、昭和二十六年（一九五一年）、キリスト教の洗礼を受け、アメリカに渡り、伝道者となった。淵田が回心したのは、ある人物との出会いがきっかけだった。

元米陸軍の爆撃手（ジェイコブ・ディシエイザー）は、真珠湾への復讐心に燃え、日本本土

への初空襲を志願、名古屋に三百発近くの焼夷弾しょういだんを投下した。そのデイシエイザーもまた戦後キリスト教の宣教師となり、日本に戻り、自分が爆撃した名古屋を拠点に全国で伝道活動を行った。戦争から四年後の冬、ふたりは運命の出会いを果たす。デイシエイザーの書いた布教活動の小冊子『私は日本の捕虜だった』を、淵田が渋谷駅で偶然受け取ったのだ。以来ふたりは、人生をかけて贖罪しよくざいと自省じせいの旅を続ける。淵田はアメリカで、デイシエイザーは日本で。……この話は、いったい何か？ 信じがたいと思うのは私だけだろうか。

これでよかったのか東京裁判

戦後、『極東国際軍事裁判』東京裁判』が開かれた。裁判は昭和二十一年五月三日に開廷し（実際に裁判がはじまったのは六月四日）、二十三年十一月十二日に判決が下った。戦犯は、A級戦犯、B級戦犯、C級戦犯と三つに分かれていた。国際検事団は、アメリカ、イギリス、中国、フィリピン、ニュージーランド、カナダ、オランダ、オーストラリア、ソ連、フランス、インドといった、日本と太平洋洋上や島々で戦ったなかで大きな被害を受けた十一ヶ国（十一人の判事）で構成されていた。

国際検事団にA級戦犯と目された人は逮捕され取り調べを受け巣鴨拘留所に入れられた。百人以上もいた。さらにその中から裁判にかける第一級のA級戦犯が二十八人に決まった。東京裁判が終わった後、残ったA級戦犯容疑の人たちも裁判にかける予定だったが、昭和二十四年

(一九四九年)二月、追加裁判は行なわないことを決めた。二年半かかって二十八人を裁いた頃には世界情勢がどんどん変つてきて、戦勝国が検事団を組んで進められる状態ではなくなつた。金もかかり過ぎた。準A級戦犯は数も多かつた。岸信介などは釈放されて巣鴨拘留所から出て来た。外国の世論を見ると、天皇の戦争責任については厳しいものだったが、実際は、マッカーサーの昭和二十一年一月二十五日付けの手紙を受けたワシントンの三省(國務省、海軍省、陸軍省)委員会ですでに天皇は裁判にかけない。戦争責任は追及しないと決まっていた。これを、日本人は大いに喜んだ。

当然、真珠湾攻撃隊の総指揮官だつた淵田美津雄も出頭したが裁判の結果、釈放された。なぜか? 彼は一兵士にすぎなかつたからだ。自身もA級戦犯である木戸幸一・天皇側近(内大臣・文相・内省・厚省)は、「真珠湾攻撃前夜、断固アメリカを撃つべしと頑強に言い放つたのは東條英機」と名指し、検事団に協力した。彼は絞首刑にならなかつた。A級戦犯で絞首刑になつた七人のうち、東條英機(陸相・内相・首相、参謀総長)は、どうしても死刑にしないわけにはいかない状況だつた。彼は裁判で「真珠湾攻撃は、正しい事を実行した」と答えた。

BC級戦犯は、連合国によつて捕虜虐待など「人道に対する罪」や「通例の戦争犯罪」に問われた元軍人ら。戦場となつたアジア各地(虐殺など直接の關係国のみによつて裁かれた。イギリスとオランダが一番多い事から、その憎しみの強さがうかがえる)や、横浜の法廷で裁かれた。五千七百二人が起訴され、裁判ののち九百四十八人に死刑が執行された。下級将校や下士官、憲兵が多かつた。ずさんな調査や虚偽の証言で裁判が進められた例もあつた。「そして死刑になつ

たすべての人が、靖国神社に祀られました。」(半藤一利著『昭和史』戦後篇(平凡社)二四五ページにそう書いてある)。

東京裁判の判事の中に「人間は、戦争を裁く事はできない。全員無罪にすべき」と発言した人が一人いた。インドのバル判事だ。「平和に対する罪(侵略の罪)」は、昭和二十年(一九四五年)八月八日に制定された。「戦争が始まった時、この法律は存在しなかった。事後法は認めない。全員無罪」を主張した。バル判事の意見は重要だったが、裁判は多数意見で進んだ。『東京裁判』、これほど謎に満ちた裁判は他にない。ともかく、昭和二十三年十一月に判決が出て、東京裁判は終わった。そして十二月には七人が東京の刑務所で処刑された。

「死刑の七人(東条英機 武藤章 松井石根 木村兵太郎 板垣征四郎 広田弘毅 土肥原賢二)のほか、二人(松岡洋右 永野修身)が裁判中に病死し、懲役刑などを受けた人も、のち巣鴨で五人(梅津美治郎 東郷茂徳 小磯国昭 白鳥敏夫 平沼騏一郎)が亡くなっている。この十四人は、昭和五十三年(一九七八年)、国家のための殉難者として靖国神社に祀られました」(半藤一利著『昭和史』戦後篇(平凡社)二四六ページにそう書いてある)。

靖国神社で、「ご苦労様でした。ありがとう」と頭を下げるか議論が分かれるのはそのためです。

がん治療革命

平成二十八年十一月二十日、NHKスペシャル『がん治療革命』を観る。日本人の二人に一人

がかかる病、がん。その「新治療薬」は、打つ手が無い患者に光、鍵は遺伝子の解析かいせき。

進行した大腸がんを患う四十八歳の男性は、四度にわたる再発を繰り返し、手術不能とされていた。しかし、ある薬の投与によって腫瘍が四十三パーセントも縮小した。職場への復帰を遂げた。投与された薬とは、皮膚がんの一種、メラノーマの治療薬だ。大腸がんの特効薬はないが、それに一番近い薬を選び出し投与する。今、こうした従来では考えられなかった投薬により劇的な効果をあげるケースが次々と報告されている。

背景にあるのは、がん細胞の遺伝子を解析し速やかに適切な薬を投与する「プレシジョン・メディシン（精密医療）」だ。がん細胞の遺伝子を解析、適切な薬の投与には人工知能ワトソンが使われている。ワトソンが何千何万の論文を読み込み、解析して治療薬を教えてくれる。人では一日に一つか二つの論文しか読めない。人工知能なくしては、このプロジェクトは進まない。

日本では去年、国立がん研究センター東病院（千葉県柏市）など全国二百以上の病院と十数社の製薬会社によってスクラム・ジャパンと呼ばれるプレシジョン・メディシンのプロジェクトが始動した。進行した肺がんや大腸がんを中心に、がん細胞がもつ遺伝子変異を詳細に解析。効果が期待できる薬を選び出して投与する。これまでに七千人近くの患者が参加し、肺がんでは八人に一人に薬が効く可能性のある遺伝子変異が見つかった。百人ほどが実際に臨床試験に入っている。

先進地のアメリカの最新事情がすばらしい。国立がん研究センターが紹介された。オバマ大統領は宇宙開発から、がん研究に国の方針を転換した。

日本でも、患者や家族は、一様にがんが小さくなり、助かるという希望に喜んでいるが、がんが全くなくなるわけではない。薬が発見された患者も転移はある。人工知能でも薬がみつからない患者もいる。医者から「薬がみつかりませんでした」と言われた患者は、「新薬の開発を待つしかないでしょう」と笑ったが、どれほど心に打撃を受けたことか。

治療費・薬代は、保険が適用されないので、一回四十万円から百万円だ。それでも患者は支払う。余命二年が五年になり、生きる可能性があるのなら人はいくらでも支払う。だれかが、どこかで儲けていると思っても。

しかし、医療がどんなに進んでも、お金がない人は受けることができない。薬がみつかった人でも、高額なので、あきらめざるをえない。また、「高額な治療をして寿命を少し先に延ばしても、人はいつかは死ぬ」と考え、治療を受けない人もいる。「プレジジョン・メディシン（精密医療）」にも課題は山積している。

原発いじめ

原発事故で福島県から横浜市へ避難した少年が、転校先の学校でいじめを受けていたという。

彼は、平成二十三年（二〇一一年）三月十一日、小学一年生の時、震災に遭った。小学校二年生の時、福島県から横浜市立小学校に転校した。直後から「ばい菌」と言われ複数の児童によるいじめが始まった。ある日、母親は「放射能をまき散らすな」という自宅ポストに入れられた紙

片を見つけた。小学四年生になると主に同じ児童から暴力などのいじめを受けた。小学五年生になると「賠償金をもらっているだろう」と言われ、同級生らに約十人分のゲームセンター代や飲食代を負担させられた。弁護士によると、その額は合計約百五十万円に上るといふ。持ち出した現金は親戚に返済する予定で自宅に保管していたもの。一家が東電から実際に受け取った賠償金は数十万円程度で、引越し費用などで消えていた。学校に相談すると、「生徒が自らお金を持って行ったことなので、警察に相談してください」と言われ、警察からの連絡を受けたにもかかわらず、横浜市教育委員会は「単なる児童同士の金銭トラブル」として調査しなかった。「横浜市や学校は一体何をしていたのか」と怒りの投書が神奈川新聞に掲載された。もっともなことで。しかし、このいじめは、いじめている児童の家庭に問題がある。大人のモラルに問題がある。子どもは親や周りの大人たちを見て育って行く。大人が誤った認識を持っていると、子どもたちへ反映されてしまう。「放射能」に対する親の偏見が差別を生んでいるのだ。

金銭トラブルとは、まるで暴力団の行為ではないか。「賠償金」とは、小学生で出て来る言葉ではない。いじめに関わった小学生は、家庭で「賠償金をもらっている」と父親母親が話しているのを聞いているのだろう。いじめの発端は家庭にあると指摘する人は少ない。

教育評論家の尾木直樹氏（法政大学教授）も、「行政や学校が、彼らを社会から孤立させないように対応していたのかを検証し、再発防止につなげる必要がある」と指摘した。

中学一年になった生徒の代理人が記者会見し、生徒が小学六年生の時に胸の内をつづった手記を公表した。「いままで なんかいも死のうとおもった。でも、しんさいでいっぱい死んだから

つらいけど、ぼくはいきるときめたとある。だれもが「よく思いとどまってくれた」とほっとした。中には「励まされた」と言う人もあった。読売新聞は、大見出しで「学校の意識改革課題」再発防止には学校現場の意識改革が不可欠だと書いた。

青少年の事件があるたびに、家庭で親と子が話し合っていないのではないかと思う。家庭の教育が一番大切なのに。全ての物を失って避難した住民は、被害者であることを忘れてはならない。この問題を解決するためには、国の速やかな情報公開と手厚い支援が不可欠だ。

知らなかった六ヶ所村

平成三十年六月六日、深夜〇時から（再放送）Eテレ『ETV特集』「原子力の最大の課題・核のゴミ最終処分」を観る。

青森県六ヶ所村で一時保管が続く核のゴミ。「原子力」保有国日本、「原子力」は本当に安全なのだろうか。「国が言う安全な物なら、どこに置いてもいいのではないか」という意見があり、印象に残った。

なぜ、六ヶ所村に核施設ができたのだろうか？ 六ヶ所村は貧しかった。冬の間は雪に閉ざされ、男は出稼ぎに出た。開拓民はイカの内臓をもらい、食べて飢えをしのいだ。当時の原子力推進課長は、十二人兄妹で、七人が栄養失調で死んだ。知人から役場に勤めるように言われた。十九歳だった。どうしたら村人を救うことができるか。そこに原発の話が来た。「夢のような話だった」

と言う。何としてでも進めなければと思った。

そして原子炉施設六ヶ所村が建設されて行つた。施設が建つ所の土地所有者は、牛や馬を手放さなければならなかった。反対派は八十一パーセントにのぼつた。土地の買い占めに多額の金がばらまかれた。農民は、それで納得させられた。課長は、これを逃したら村人を貧しさから救うことができないと、必死に説得した。

現在、原子力施設のおかげで、国からの補助金で、一千万円以上するグラランドピアノのある音楽ホール（これは、日本一）、子どもから大人まで一年中使える温水プール、無料の温泉施設に健康ランド。村民は「快適な生活で幸せ」と言う。若者たちは、原発施設に就職している。村を離れず、活気ある職場だ。「やりがいがある」と言う。豊かになった村人、原発反対派は半数に激減した。

いったんフランスに送つた核のゴミが処理され、送り戻されて来た。高熱のため冷やされてはいるが蒸気を出している。原発を推進した元課長は、今、八十歳を過ぎ、孫もいる。いつまでも核のゴミを六ヶ所村に一時保管していることに懸念を示している。当時の科学技術庁長官だった田中眞紀子氏は、NHKのインタビューに対し、「これから他の場所へ移すことは、ありえない」と明言した。

再稼動した各地の原子炉は、核のゴミを出し続けている。これでいいのだろうか。テレビは、普段、なかなか知ることや見ることの難しい大切な情報を、夜遅く放映しているものもあります。大人だけではもつたない、と思います。重い番組も観よう。みんなで考えよう。

オスプレイの事故

オスプレイの事故が絶えない。平成二十八年十二月十三日夜、沖縄本島沖数十キロで空中給油訓練中、プロペラが破損して飛行が不安定になり、パイロットは住宅地を避けるため、浅瀬に不時着した。機体はバラバラに破損した。米側は、事故は乱気流によって給油機のホースと事故機のプロペラが接触した事が原因で機体自体には問題はなかったと説明した。さらに、アメリカ軍関係者は、「住宅地に落ちないようにしてやった。感謝しろ」という趣旨の発言をした。これは、沖縄県民を、日本人を軽く見ている。許しがたい。

ある日、畑仕事をしていると、突然、西の空から東に向かうオスプレイが一機現れた。後ろには自衛隊機が三機付いていた。夫に「オスプレイが頭上を飛んだのよ。あの形はオスプレイに間違いないわ。なにかしら？」と言っても、反応はなかった。

翌日の神奈川新聞には、「昨日、オスプレイが二機、厚木飛行場に飛来ひらい。まもなく、どこへともなく飛び去った」と書いてあった。「どこへともなく」とは、のん気な話だ。

来年からは、千葉県の木更津にもオスプレイが配備される予定だ。次第に日本中にオスプレイが配備される。これで、いいのか。

想定外でした

南スーダンの国連平和維持活動（PKO）の派遣部隊に新任務「駆け付け警護」が付与された。訓練のようすが一部公開されニュースになったが、「自衛隊は海外に行かないで」の願いもむなしく、選ばれた自衛隊員は混乱を極める戦場に出発してしまった。

「他国の軍人を駆け付け警護することは想定されない」「銃撃戦が行われているような過酷な現場で行うことは想定されない」。何かあった場合、「想定外でした」ではすまない。

NHKテレビは、平成二十八年八月十三日、NHKスペシャル『PKO 23年目の真実』を放送した。「なぜ仲間は死んだのか 文民警察官の衝撃告白」だ。

平成五年（一九九三年）五月四日、タイ国境に近いカンボジア北西部、ポルポト派の拠点に一番近い村アンピルで、UNTAACに文民として初めて参加していた日本人警察官五人が、ポルポト派とみられる武装ゲリラに襲撃された。警護のオランダ兵は逃げた。後日、「自分たちの身を守るため、しかたがなかった」と証言した。それほど恐ろしい場所だった。

銃撃戦に巻き込まれた岡山県警察の青年警察官・高田晴行さん（当時警部補・三十三歳）が被害され、四人が重軽傷を負った。選挙の治安維持や指導にあたっていた警察官は武器を持っていなかった。「防弾チョッキだけでは身が守れないため、ルール違反でも自分たちで武器を買った」と証言した。隊長は、「治安の悪化が寄せられていたが、日本だけ撤退できなかつた」と。

当時の内閣官房長官・河野洋平氏は、「自衛隊はまとまっていたが、警察官は三人、五人と点在していて場所が把握できていなかった」「自衛隊の事ばかりが頭にあって、文民警察については、散っていたので、手が回っていたかどうか分からない」「停戦の条件が崩れていないと思っていた」と、無責任な発言を繰り返し、「想定外だった」で終わった。「亡くなった警察官については、もっと敬意を賞さなければいけない」とは、戦時中、死んで行った兵隊のような扱いではないか。

湾岸戦争以来、日本が目指した人的な国際貢献の場で起きた惨劇は、検証されることなく二十三年の月日が流れた。今、日本は安全保障政策が大きく転換し、PKOでもさらなる任務が求められている。私たちは方向を誤ってはいけない。

南スーダンPKO撤退

南スーダンの国連平和維持活動（PKO）に派遣されていた陸上自衛隊施設部隊の第十一部隊（三百五十三人）のうち、最後まで残っていた四十人が平成二十九年五月二十七日に帰国した。これで五年四ヶ月にわたる現地での活動は終了し、PKOへの部隊派遣はゼロとなった。

「自衛隊海外派遣反対」の国民の声にも関わらず平成二十四年一月から海外派遣が開始され、全国の部隊が半年交代で派遣され、道路補修や用地造成、公共施設の整備などに従事した。国づくりの支援だ。さらに昨年十一月、『安全保障法政』に基づき、「駆け付け警護」などの新任務が初めて付与されたが、実施されることはなかった。今回はだれも死ななかったが、治安が悪化し

ている現在、命の保証はない。自衛隊を海外に派遣すべきではない。一度作られた法律は撤廃されることは無い。

腕がすぐ折れそうなほどやせかけた男児。陸上自衛隊の派遣先だった首都ジュバ。病院のベッドに、多くの栄養失調の子どもが横たわっている。母親は「食料が足りない。一日に一、二回しか子どもに食べさせてやれない」と嘆く。これが南スーダンの現状だ。

日本政府は「国造りが新たな段階」を迎えたとするが、現地では内戦状態が続き、食料危機が深刻化している。戦闘を逃れ、国連のキャンプに避難する人が後を絶たない。独立から六年弱、人々は絶望の淵にいる。

平成二十九年五月二十八日、夜九時、『NHKスペシャル 変貌するPKO』を観た。「南スーダンで何が起きているのか？」防衛省はNHKのインタビュアーに応じなかった。自衛隊員の証言があった。平成二十八年七月十日、自衛隊（第十部隊）の宿営地を挟んで政府軍と反政府勢力の銃撃戦があった。死を覚悟した隊員もあった。「その時が来たら笑って死んで行きます」と遺言を書いた。遺言を書いた隊員は一人ではなかった。この日の事は日本では公にされることはなかった。

「平和への貢献は、命と引き換えもやむをえない」と平気で発言する元国連特別顧問もテレビ出演した。日本の自衛隊の場合、武装していない。どうすれば、自分の命を守ることができるのか？

当初、紛争地の平和を維持するために作られたPKOは、今大きな分岐点を迎えている。これまで「停戦監視」や「国づくり支援」が中心だったのに対し、テロ組織の脅威にも対応しなければならず、任務は長期化している。住民や国連職員を守るための「戦闘も辞さない文民保護」が求められるようになった。治安の悪化により、先進国・フランス、イギリス、カナダのPKO参加は急激に減少している。エチオピア、インド、パキスタンのような途上国は増えている。特に中国は積極的だ。人口が多いからPKOに参加させるといふ考え方はいけない。

報道は、オランダのように本場の事を国民に見せてほしいものです。オランダは他国の平和貢献のために、多くの命を失った。犠牲になった青年の親は、やりきれない心の内を語った。では、日本の国際貢献はどうすればよいのだろうか。みんなで議論し、より好い方向を模索したい。政府が沈黙する中、NHKは勇気ある放送をしました。

核兵器禁止条約に参加を

米ニューヨークの国連で核兵器を法的に禁止する条約が史上初めて採択された。交渉には核保有国や唯一の被爆国日本は参加していない。「なぜか？」。

国連本部で開かれていた「核兵器禁止条約」の交渉会議は平成二十九年七月七日、核兵器の「開発」や「使用」のほか、「核兵器を使用して威嚇すること」などを禁じる条約を賛成多数で採択した。「威嚇の禁止」は「核の抑止力」といふ考え方を否定する踏み込んだ内容です。また、前文には

「被爆者にもたらされた受け入れ難い苦しみと被害に留意する」と明記した。

アメリカなどの核保有国や核の傘に頼る日本政府は署名しない方針で、核廃絶への取り組みは道半ばだ。

カナダ在住の被爆者・サーロー節子さん（八十五歳）の訴えが、世界を動かした。

「私はこの日を七十年以上待ち続けていました」、「次の一発を止めなければなりません」、「亡くなった数十万の人々。彼らはみな、それぞれに名前を持っていました。そして、みな誰かに愛されていました」。

これまでの核抑止政策を失敗と断じ、「我々は取り返しのつかない環境汚染を繰り返しません。将来世代の命を危険にさらすことを続きません。世界各国の指導者たちに懇願こんがんします。もしあなたがこの惑星を愛しているのなら、この条約に署名してください」。

最後は、こう締めくくった。「地球を愛する人に、未来を生きる希望を与えなければなりません」、「核兵器はこれまでずっと、道徳に反するものでした。そして今では、法律にも反するのです。一緒に世界を変えていきましょう」。会場は、ほぼ総立ち、盛大な拍手でした。

広島は平成二十九年八月六日、原爆投下から七十二年の「原爆の日」を迎えた。「平和記念式典」のあと、安倍首相と面会した被爆者らは、「原爆投下のその日まで、私たちは普通の生活をしていました。自分たちが、どんな悪い事をしたというのでしょうか」と怒りを込めて条約に不参加の日本政府に、安全保障を核に頼ることのないよう求め、抗議した。しかし、米国の核の傘に依存し、条約に反対する政府との立場の違いは平行線のままだった。これでいいのか日本。

八月十五日は何の日

安倍政権で、十八歳・十九歳の選挙権を認める法律が成立し、施行された。一方で、「八月十五日は何の日か知っていますか」というテレビの街頭インタビューに対して、若者たちは、「知らない。何の日だっけ?」「私の誕生日とかア」と、へらへら笑いながら答えていた。ふざけているのか。十八歳・十九歳に選挙権を与えてよかったのか。

大学教授は、「高校の世界史では、近・現代は時間が無くて省くことが普通です。大学受験には出題されません」と言った。大学受験だけが勉強ではない。日常生活の中でも学ぶことはできる。

朝、NHKテレビ『おはよう日本』の男性のアナウンサーが「今日は八月十五日、終戦の日です。日本中が祈りの一日です」と言った。

北朝鮮の言い分

平成二十九年八月二十二日、スイスの国連で北朝鮮の代表が発言した。「日本は、自国の軍事化のために北朝鮮を利用するのをやめていただきたい」と。NHKのニュースでこれを聞いた私は、驚き慌てた。日本政府の動きをよく研究している。日本は、北朝鮮がロケットを打ち上げる

たびに軍事を強化している。アメリカから新型兵器の購入や自衛隊の追加任務、さらに憲法に自衛隊を盛り込もうとしているなど。日本人は政府の流れに気がついていない人が多いが、北朝鮮はお見通しだ。

◆「国際連合ジュネーブ事務局」は、スイスのジュネーブにある国際連合の事務所。四つの主要事務所のひとつで、ニューヨークの国連本部に次いで二番目に大きい。国際連合欧州本部とも呼ばれる。

平成二十九年十二月、今年の世相を表す「今年の漢字」に「北」が決まった。和紙に揮毫した清水寺の森清範貫主は「『北』という字は、背を向けている二人を表すが、話し合って平和な世の中が築かれるようお願いを込めた」と話した。